

平成24年6月13日

茨城県くり生産者連絡協議会の総会開催される

平成24年6月13日（水）、茨城県農業総合センター大研修室においてを、各生産部会代議員の他、県産地振興課糸賀技佐をはじめとする多くのご来賓、関係機関のご出席をいただき、24年度総会を開催しました。

川上好孝会長はあいさつで、昨年のもとの原発事故による風評被害、そして今年は雹害と苦労も多いが、日本一の栗産地として茨城が全国をリードする心構えで活動を展開していくと力強く訴えました。

また、来賓を代表し産地振興課の糸賀技佐、園芸いばらき振興協会の塚本専務理事からは「くりは、なしと並んで本県を代表する果樹であり、特に加工品で付加価値を高めることが大切。」名実ともに日本一となるよう、協議会活動の取り組みへ期待を込めたあいさつがありました。

議事は、須藤 喬氏（JA 茨城中央農協栗部会）が議長となり、スムーズな議事進行のもと全議案可決されました。

報告事項では、県産地振興課の加治係長から、農林水産大臣賞の栄誉を授与される「くり生産力向上共励会」の開催、くり貯蔵のキーとなるヨウ化メチルの現状を説明いただきました。

続いて、今回初の取組として各部会の生産販売状況を報告していただき、そのなかで、くり選果機の老朽化が課題となっていることが明となり、対策の必要性を訴えられました。

記念講演では、昨年8月に東京谷中銀座で、本県産くりを使用した栗専門店「和栗や」をオープンし、本県産くりのPRに大きな力となっている竿代 信也氏をお招きしました。「和栗や」の取り組みや和栗の魅力を「品質の良い産地、くりを知り尽くした加工業者、その魅力を消費者に届ける私どもと、それぞれがしっかりと役割をもっていることが重要です。」と語っておりました。会場では「和栗や」の栗大福を味わい、生産者からは「和栗の魅力たっぷり、ぜひ我々のためにも安売りはしないでください。」と竿代氏にエールが送られました。

くり生産農家にとって、いろいろと認識を新たにする半日になったことと思われます。



会長あいさつ



和栗や竿代氏、講演

